

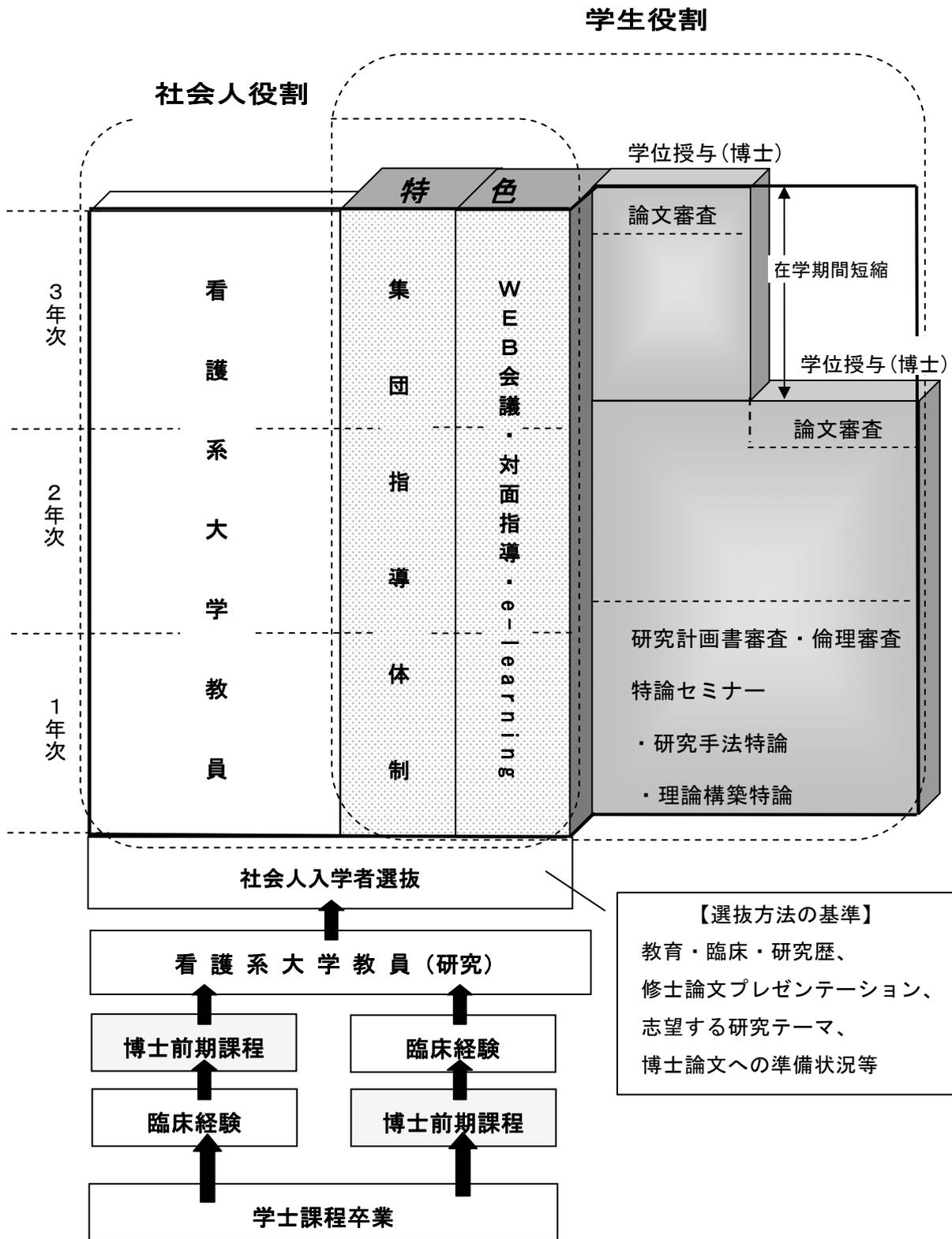
平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

機 関 名	東京医科歯科大学	整理番号	c006
1. 申請分野(系)	医療系		
2. 教育プログラムの名称	看護系大学教員の博士号取得推進プログラム (若手教員の研究能力開発と看護学論文審査システムの確立)		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 看護学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (基礎看護学、臨床看護学、地域・老年看護学)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([]書かで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 保健衛生学研究科・総合保健看護学専攻(博士前期課程) 保健衛生学研究科・総合保健看護学専攻(博士後期課程)	研究科長(取組代表者)の氏名 島 内 節	
	(その他関連する研究科・専攻名)		
5. 本事業の全体像			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>本学は、平成11年に分化しすぎた医学、歯学の境界領域を統合集約するため、従来の医学研究科と歯学研究科を再編して、世界初の医歯学総合研究科を設置した。平成13年には保健衛生学研究科が発足、平成15年度には疾患生命科学研究部・生命情報科学教育部を設置し、これにより医療生命科学総合大学院大学としての陣容を整えた。夫々の領域の専門性のきわめて明確な医歯学系総合大学院大学として、生命科学のフロンティアに踏み込む独創性を持つ研究者と、患者の痛みを理解できる医療人養成の実現を目標とした研究・教育の体制作りを行っている。現在、本学博士課程の総定員は1000人を突破し、量的、質的に飛躍的に充実しつつある大学院に快適で先端的な研究・教育環境を整備するため、地下3階地上21階の医歯学総合研究棟(1期)を平成16年に竣工させ保健衛生学研究科と医歯学総合研究科認知行動医学系(COE)を研究の機能性を考慮して移転した。さらに医歯学総合研究科の残り10専攻系と疾患生命科学研究部・生命情報科学教育部及び難治疾患研究所を結集する、地下3階地上27階の医歯学総合研究棟(2期)も既に着工し平成19年に竣工させる予定である。こうしたハード面での整備に加えて、21世紀COEプログラムや振興調整費など、さまざまな競争的教育研究経費をベースに、学長裁量による重点的な研究費の投入によって、優れた研究者を養成すべく大学院教育の更なる充実を図っているところである。</p>			

機 関 名	東京医科歯科大学	整理番号	c006
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)</p> <p>本学大学院保健衛生学研究科は、わが国で4番目に看護学での博士課程が設置され、これまで多くの教育・臨床・政策に貢献する人材を輩出してきた。平成13年の大学院重点化に伴う部局化で大学院の教育・研究機能は強化され、国立大学法人としては最多である4コースの専門看護師教育課程(地域、老年、クリティカルケア、母性)の認定を受け、現在さらに3コース(精神、小児、在宅)の申請準備中である。国際的研究活動としては、世界4地域9大学との協定を締結し、毎年多くの教員、大学院生の人的・研究的交流が図られている。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)</p> <p>わが国の120を超える看護系大学には、4,486名(平成17年4月現在)の看護教員が在職するが、そのうち助手を中心とした若手教員が4割以上を占める。これらの若手教員は、学内演習、臨地実習という看護教育での重要部分を実質的に担っているが、多くは博士号を有しておらず、職務遂行の上からもまた自らのキャリアアップのためにも学位取得を望むものが多い。現在、多くの社会人大学院コースが設けられているが、在籍学生(特に教員)は在学延長や休学を繰り返すケースが多く、教育上からも問題がある。本取り組みは、わが国の看護系大学の若手教員が、在職のまま博士号の取得を推進するプログラムであるが、従来の社会人コースと異なる点は、学生の在職大学教員との連携指導、本学の共同研究プロジェクトへの参加による研究の拡大、提携医療施設でのデータ収集、専門家集団による『アドバイザー・リソース』の設置などによる研究バックアップシステムを構築し、有機的かつ効果的で、看護学全体の発展に寄与する研究成果と研究者育成システムを作り上げることにある。また、当研究科は平成14年より博士(後期)課程の修業年限短縮のための特例申し合わせと判定基準が制定されており、本プログラムが効果を上げれば2年間での修了が可能である。加えて本学は全国からの交通アクセスに優れ、定期的な対面指導に適しているほか、光通信による e-learning システムを整備し、webカメラを用いた面接や全国多地域を結んだweb会議による意見交換を研究指導に活用する。看護系大学の若手教員への重点教育は、次世代の看護学研究、教育、そして臨床看護ケアの質の向上・発展のために不可欠であり、全国看護系大学の相互連携のもとに総力を結集して実践すべきプログラムと言える。</p>			

6. 履修プロセスの概念図



看護系大学教員の博士号取得推進プログラム「教員博士課程(仮)」の概念図

機 関 名	東京医科歯科大学	整理番号	c006
<p data-bbox="165 199 587 232">< 審査結果の概要及び採択理由 ></p> <p data-bbox="165 295 1428 472">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="189 488 491 521">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="189 535 1428 613">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="189 629 1225 663">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 678 1428 855">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が、優れており、期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に十分適合しており、その実現性も高く、一定の成果と今後の展開も十分期待できると判断され、採択となりました。</p> <p data-bbox="189 871 1206 904">なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 967 635 1001">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="165 1016 1428 1193" style="list-style-type: none"> ・現実的に、看護系の教員に博士の学位を取得させようとする、社会的な要請のあるテーマで、有用な教育プログラムになるものと期待できる。特に、コースワークの充実や、社会人の受入などについて魅力的な内容が網羅されている。なお、本教育プログラムの運用に当たり、制度の整備等に更なる工夫が必要である。 			